



ち

# やぶ台の食事が紡ぐ 子どもたちの暮らし

うらら保育園

自然食の給食とちゃぶ台



食育と  
コミュニケーションの  
現場から



ご飯やおかずは自分でようそう。ときには他の子の分をよそってあげたり



乳幼児だからと壊れにくいものではなく、使うのは陶製や木製の食器



一歳児も野菜をおいしそうにポリポリ

## 人やものとの関わりから知る 暮らしの多様性

時間はちょうどお昼どき、保育園の板張りの広間には、昔風の円いちゃぶ台が並び、子どもたちは散歩から帰ってきたばかり。そこに大きな鍋やおひつが運ばれてくると、みんな一斉に集まってくる。

手には陶器の茶碗や木のお椀。三〜五歳の幼い子どもたちが、小さな手でしゃもじやお玉を使って、順番におひつのご飯を盛ったり、すまし汁をお椀に入れていく。見た目には少々危なっかしいけれど、子どもたちにすれば手慣れたもの。ときには他の子の分をよそってあげたりもする。

「ここは東京都葛飾区にある『うらら保育園』。一〇年前の開園以来、子どもの自主性をいかしたユニークな給食の試みを続けている。

「『うらら』の食卓に並ぶものには、一日八品目以上の野菜を使用しています。全部が無農薬の有機野菜。とにかく本物の味を知って欲しいと考えています。もちろんお出汁も天然のもですが、本物の味は幼くてもちゃんと分かるようです」と、主任保育士の青木美紀子さん。

同園には、ゼロ歳児から五歳児までの約七〇名が在籍。三〜五歳の子はそれぞれの担任の名をとって、「家」と呼ばれる三つのクラスで構成されている。一つのクラスが大きな家族のイメージで、異なる年齢の子たちが、一緒になって遊んだり、



お昼のごはんの後はお昼寝の時間、その前に紙芝居のお楽しみ



円いちゃぶ台の周りの好きな場所を選んでもらう。大家族が一度に食事をしているかのような光景



自分が使った食器はかごの中に戻して、ごちそうさま

社会福祉法人 清遊の家 うらら保育園

〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩3-37-27

TEL. 03-3696-2637



食卓を囲み暮らし創りをしている。

この日の献立は、お肉や人参などを炒めた韓国風チャブチエ、きゅうりや大根もやしなどを和えたナムル、きび入り七分づき米のご飯、すまし汁。子どもによつては好き嫌いもあるけれど、無理強いはない。「自分で上手によそっていますね。年長の子が長男長女の立場。好き嫌いを言ったり食卓マナーが悪い子に注意したりもしますし、まるで長屋の子だくさんのご飯どきという感じですよ」。

角のないちゃぶ台だから、みんなで円くなって、顔を見合わせながら食べる。

一般の家庭では、もうほとんど見ることのない光景。お茶碗やお椀を小さな手で持って、お箸も上手に使って、おいしそうにばくばく。中には何度もおかわりをする子もいる。

食べ終わると残りを集めて、食器も自分でかごの中に。みんなが食べ終わる頃には、自発的に周りの片づけをしたり掃除を始める子も。

「乳幼児期は人間形成にとって大切な時期。遊んだり食べたりする毎日の体験の中で、他の人やものとのさまざまな関わりを通して、人として成長していつてほしいのです」と斉藤真弓園長。うらら保育園での日々の中で、子どもたちが肌で感じ取れることは、きっと暮らしの中の多様な価値観そのものなのだろう。

(文責・CEL編集室)

CEL